

平成28年度第2回さぬき市行政評価委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成28年8月23日（火）13時30分～15時55分
- 2 場 所 さぬき市役所3階第302会議室
- 3 出席者 【委員】小山委員 鈴木委員 津村委員 長山委員 奈良委員 森委員
 【事務局】白井課長 津村副主幹 三宅主査 佐々木主任主事
 【評価対象所属】子育て支援課長、事業担当者1名
 長寿障害福祉課長、事業担当者1名
 幼保連携推進室長、事業担当者1名
 教育長、教育部長、学校教育課長
 生涯学習課長、事業担当者1名
 【傍聴】0名
- 4 会議次第 1 開会
 2 委員長挨拶
 3 議題
 (1) 事務事業外部評価
 ①子育て支援課
 ②長寿障害福祉課
 ③幼保連携推進室（学校教育課）
 ④生涯学習課
 (2) 次回開催日程等について
 4 その他
 5 閉会
- 5 配布資料 資料1 平成28年度事務事業外部評価質問回答一覧（8月23日実施分）
 資料2 総合計画実施計画及び事務事業評価調書
- 6 会議内容

発言者	意見概要
事務局	<開会（13：30～）> 平成28年度第2回さぬき市行政評価委員会を開会する。 委員長から挨拶をいただき、引き続き進行をお願いする。
委員長	本日は、第2回の行政評価委員会となります。通例のとおり4件の事務事業外部評価を予定している。原則として、説明5分、質疑3分、そのあとで評価という流れになります。 早速ですが、子育て支援課の「乳幼児医療費支給事業」について、説明時間は5分と短いので、適宜省略しながらご説明ください。それではよろしく申し上げます。
子育て支援課	<事業説明>
委員長	今の説明に対して、質問や意見があればお願いします。

委員長	では、私から。乳幼児受給率の計画値を「2,100%」に設定していたのは、何か根拠があるのか。受給件数は、レセプト枚数を指していると思うが、検診の回数を積み上げていくとこの数字になるのか。
子育て支援課	乳幼児対象者は就学前の子どもですが、新しく小学1年生になる子どもについてもその年度に支給する部分があり、受給延件数を1年分多い子どもの数で割ることで数字が少なくなった。
委員長	実績値が計画値を下回ったのは、数値の把握のしかたに原因があると理解した。一方、計画値「2,100%」とは一人あたり21レセプトということになると思うが、根拠はあるのか。
子育て支援課	「市内の乳幼児数」の考え方には、新しく小学1年生になる子どもの受給申請も含まれているため、その部分を除いて算定したものが「2,100%」である。
委員長	除いた部分というのは、過去の実績値から導き出したものか。計画値を「2,100%」にした理由は。
子育て支援課	結果的に新小学1年生を加えて算定することにしたため、「1,660%」になった。新小学1年生を除いて算定すると「2,100%」である。
委員長	実績値に合わせて、計画値を作ったということか。
子育て支援課	調書作成時に受給率の算定方法に関する事務局の助言に従って算定した。
委員長	積み上げた数字ではないということですね。
委員	成果指標として「1,660%」「250%」の表記は問題ないか。達成感等を含めた数字だと思うが、「分母」と「分子」の捉え方に違和感がある。
子育て支援課	「一人当たりのレセプトが何枚」という考え方がよいということか。
委員	誰の目にも成果が分かり易いものであれば、形は問わない。
委員	分子の「受給延件数」を「受給乳幼児数」に変更してはどうか。
委員長	レセプトから名寄せした受給者数のデータは持っているのか。
子育て支援課	1回でも受給した子どものデータはある。
委員長	あるのであれば、差し替えて受給率を出した方がよい。100%以内の方が分かり易い。
委員	所管課としての考え方を問うが、受給率は下がる方がよいとお考えか。
子育て支援課	はい。

委員	健康管理ができていているという意味で、下がった方がよいということですね。
委員長	基本的な乳幼児医療行為の中に、赤ちゃん健診や予防接種は含まれているのか。
子育て支援課	保険適用ではないので、乳幼児医療対象外となります。
委員長	<p>病気で病院に行った子どもの数だけ、ということですね。</p> <p>病気にかからなければ、論理的にゼロの可能性もある。健診や予防接種が入るのであれば数字は100を超えて高い方がよいが、病気にならないということであれば低い方がよい。ただ、お金がないため病院に行けないということを防ぐ制度であり、自己負担もないのだから、病院にかからないということはない。</p> <p>数字が低いほど健康であるということだが、現状の数字が高いということは結構病気をしているということの意味している。</p>
委員	自らの子育て経験から申し上げますと、乳幼児は体調を崩しやすく、致し方ない面がある。
子育て支援課	<p>院内処方と院外処方の関係もある。</p> <p>病院と薬局に1回ずつ通っても2件のカウントになる場合がある。</p>
委員長	病院と薬局でダブルカウントするケースがあるのであれば、やはりデータを差し替えて「受給乳幼児数」にした方がよいのではないかと。数字が下がるほど健康である、という方が論理的である。未熟児療養費についても、同様のデータはあるのか。
子育て支援課	ある。
委員	<p>本論と関連があるため質問させてもらうが、本事業は平成26年度外部評価対象事業であり、総合評価は「拡充」であった。</p> <p>その一つの成果として、小中学生の「入院にかかる自己負担分のみ」の支給から「通院にかかる自己負担分」についても支給するようになったと解釈しているが、間違っていないか。</p>
子育て支援課	はい。
委員	その成果を受けて、従来の医療費に加えて「通院にかかる自己負担分」の金額がどれ程増加したのか知りたい。
子育て支援課	<p>小中学生の医療費については、26年度が305万4,000円。通院部分を拡充した27年度は2,734万7,000円です。一般財源の負担が約2,400万円増加した。</p> <p>27年度は国からの補助金を充てたが、今後は国の補助金制度の予定はない。</p>
委員	「負担が可能な方からは、一部負担を求めることとした」とあるが、どういう形で求めているのか。
子育て支援課	<p>市町村民税非課税世帯には負担金を求めている。</p> <p>課税世帯には「通院500円、入院1,000円」を負担してもらっている。</p>
委員	負担金は事業費内訳の「その他」に入っているのか。

子育て支援課	差し引いてなので、ここには掲載されていない。
委員	一部負担金は、本人が直接病院に払うのか。
子育て支援課	償還給付を採用しているため、まず本人に窓口で全額立替えて支払ってもらい、後日、助成金として本人に払い戻します。払戻し時に一部負担金の額を差し引く、ということです。
委員	医療費総額が2,734万7,000円で、そのなかに一部負担金が含まれているという解釈でよろしいか。
子育て支援課	一部負担金424万6,000円を引いて、助成した金額が2,734万7,000円です。本来の医療費は、3,159万3,000円である。
委員	制度を拡充することはよいことだが、市の財政負担から考えると、一部負担金を求められる人からは、もう少し負担していただくことも選択肢の一つではないか。
子育て支援課	県内の状況を申し上げますと、入院や通院する子どもに一部負担を求めている自治体はさぬき市だけであり、償還給付を採用している自治体もさぬき市だけである。
委員	その他の自治体は、病院へ一括して医療費を支払っているということか。
子育て支援課	はい。患者はお金を持たずに受診できます。
委員	国と県、市で事業費の枠組みがあると思うが、市独自の支援はできないのか。
子育て支援課	乳幼児医療費については県下統一で無料化となっており、負担の割合は県補助金が1/2、市負担金が1/2となっている。 未熟児療養に関する負担割合、国庫負担金が1/2、県負担金が1/4、市負担金が1/4である。
委員	市で新たに財源を組んで追加の補助をしていくような動きはあるのか。
子育て支援課	小中学生を対象とする子ども医療費については、要望もあることから、毎年試算を行って財政当局と協議している。
委員	市政の中でも政策の優先度があると思うが、どういう位置づけになるのか。
子育て支援課	国でも貧困等いろいろな問題を言われており、本当にお金がなくて病院にかかれない方もいると考えられるので、早く子ども医療費が無料化になればよいと思うが、試算では毎年約5,000万円の追加経費が必要となる。かなりの財政負担であるため、その辺りを見極めながら検討している。
委員	予算編成の段階では、是非検討していただきたい。
委員	先ほど委員から意見があったが、28年度以降の乳幼児医療受給率の計画値は、修正するという事でよいか。

子育て支援課	修正します。
委員	働いている保護者も多いので、償還給付は二度手間である。 システムを変更することは難しいのか。
子育て支援課	できるだけ手間のかからない方向にしたいが、この場では返答できない。
委員	若い子育て世代をさぬき市に呼び込むことにも繋がると思うので、早く実現されればと思う。
委員長	不正受給防止が目的であれば、国内医療費を立替払いする必要はないと思うが。
子育て支援課	立替払いには、無用な診療を控え、結果的に医療費を抑制する効果も含まれていると考えている。
委員長	近隣市町の様子を見て、住民から要望があるであれば、子ども医療費の無料化も検討されたいと思う。
委員	総合計画（育むまち、住みやすいまち）を踏まえた施策だということを理解して取り組んでもらいたい。
委員長	<評価シート記入の説明> それでは、評価シートの記入をお願いします。
	<評価シート記入>
委員長	それでは、長寿障害福祉課の「生きがい活動支援通所事業」に移ります。 担当課から5分程度で事業を説明してもらい、そのあとで質疑応答を30分程度行います。では、お願いします。
長寿障害福祉課	<事業説明>
委員長	それでは、ご質問をどうぞ。
委員	「事業の整合性について、今後検討したい」という方向性を打ち出しているが、いつ協議・検討した結果、見直していく考えなのか。
長寿障害福祉課	平成27年度に介護保険の法改正があり、平成28年4月から「介護予防日常生活支援総合事業」が新たにできた。その中に二つの事業「介護予防生活支援サービス事業」と「一般介護予防事業」がある。介護保険課では、28年度からこの二つの事業を実施しているが、「一般介護予防事業」の中に「生きがい活動支援通所事業」を組み込んでいく形も検討している。介護保険課と調整中の状況であり、早ければ来年度から実施したいと考えている。
委員	市単独事業であるが、他の市町でも取り組んでいるのか。
長寿障害福祉課	県内では、2市町を除く15市町で取り組んでいると聞いている。

委員	どこでも取り組んでいるのに、市町から制度に対する苦情は出ていないのか。
長寿障害福祉課	事業自体が「介護保険非対象者の受け皿」として残った経緯があるので、その間の財源がどうだったか途中経過がわからない。現在、事業に対する補助制度はない。
委員	実績値が横ばいなのは、市民へのPRが少ないのが原因か、それとも実施施設数が少ないのが原因か。さぬき市には4事業所以外にもたくさんの施設があるので、利用しやすいよう実施施設を増やすことも検討すべきではないか。
長寿障害福祉課	現在実施している市社会福祉協議会のサービスは、バスで送迎を行うことで市内から広く受け入れしている。他の介護保険通所サービス事業所は、費用対効果の面で受け入れが難しいのではないかと考えている。
委員	事業所に対するPRは行えているのか。
長寿障害福祉課	率直に言って行えていない。見直し時に幅広く事業所に声かけしていきたい。
委員	一般市民に対するPRはどうか。
長寿障害福祉課	広報紙等をとおして幅広く周知していきたい。
委員	市社協以外の3事業所からは、送迎等の理解を得られていないのか。市社協は、定員が一杯だと聞いているので、みなさんが楽しんで行けるよう、事業所を広げる必要があると思う。
長寿障害福祉課	事業見直しの段階で、地域で通いやすい事業所を増やしていきたい。
委員	マイクロバスやタクシーで送迎していると思うが、経費はどれくらいか。
長寿障害福祉課	経費について答えられる資料は持ち合せていない。送迎はマイクロバスが基本であり、タクシーについては、別事業の「お達者教室」利用者であろうと思う。
委員	事業委託に当たり、実施メニューについて長寿障害福祉課は係わっているのか。
長寿障害福祉課	平成24年に見直しを行った際に係わり、介護の要素を含めた形にした。
委員	本事業の利用者は、介護保険非対象の高齢者ということもあり、元気な方が多い。運動や機能訓練をしてもらえるのは本人や家族も助かっていると思うが、メニューを淡々と消化するだけであり、高齢者の生きがいつくりまでは繋がっていないのではないか。元気な高齢者が支える立場に回ることで、自分が人の役に立っていると感じられるようなメニューであれば、もっと元気な高齢者が増えると思う。 高齢者が高齢者を支えるメニュー、送迎や経費を抑えるためにいくつにも分かれている事業を何カ所かに統合する、介護認定を受けている人や障害者が一緒にメニューを組める事業になれば理想的である。統合時に検討いただきたい。
長寿障害福祉課	介護保険課で実施している「いきいき健康教室」や「介護予防教室」では、教室修了者が体操等を地域の高齢者に教えている実績がある。

委員	一部の地域だけで広がりが見受けられない。どこの地域でも万遍にできるよう、行政として指導、声かけしてほしい。
長寿障害福祉課	難しい課題ではあるが、元気な高齢者に協力いただき、地域を支えられるよう考えていきたい。
委員	事業統合が進めば経費が抑えられ、若い世代や子育て支援に財源を回すことで、まちの活性化にも繋がるのではないかと。
委員	市と市社協の連携が少ないのではないかと。介護サービスだけでなく、前向きな部分の支援が必要だと思うので、もっと連携をお願いしたい。
長寿障害福祉課	わかりました。
委員長	日常動作や趣味の講座を組み合わせで行っているが、日常動作訓練を目的に通う方は少ないと思う。高齢者を連れ出すことを目的とするのであれば、民間事業者の参入を促し、みんなが喜ぶサービスのメニューを増やすという方法もある。教養講座の内容として、プログラムの指針はあるのか。
長寿障害福祉課	要綱で定めている内容程度であり、具体的なものまでではない。
委員長	他県では囲碁や将棋、さらには麻雀まで取り入れている例もあるが。
長寿障害福祉課	事業としてよいかどうかという話であり、一概に禁止とまでは言えない。
委員長	民間事業者を活用した活性化もありえるということですね。市社協への委託には安心感はあるものの、独創性は見込めない。
委員	今後、団塊世代が高齢化することを踏まえた対策が求められる。元気な高齢者が高齢者を支える話や委員長が述べた民間業者の活用等、見直しの中で検討いただきたい。
委員長	それでは、評価シートの記入をお願いします。 <評価シート記入>
委員長	それでは、学校教育課、幼保連携推進室の「幼稚園預かり保育事業」に移ります。担当課から5分程度で事業を説明してもらい、そのあとで質疑応答を30分程度行います。では、お願いします。
幼保連携推進室	<事業説明>
委員長	それでは、ご質問をどうぞ。
委員	成果指標を一つの欄にまとめて記載しているが、二つ目の欄が空いているので活用すればよい。

委員	<p>担当者の評価で、「市民満足の向上が期待できる取組内容となっていますか」という質問に対して「評価3」をつけているが、何か意図はあるのか。</p>
学校教育課	<p>担当に確認したわけではないが、これから幼保連携を検討する中で、現状の改善が必要だという気持ちを含めた3点であろうと思う。</p>
委員	<p>「市民満足の向上が期待できる取組内容」について、保護者からアンケートをとっているかと思うが、どのような意見があるのか。</p>
幼保連携推進室	<p>毎回アンケートをとっているわけではない。現在、幼稚園は3・4・5歳児を預かっているが、預かり保育については4・5歳児のみである。3歳児の預かり保育のニーズはあるが、なかなか実現できない要因もあり「評価3」になっていると思う。</p>
委員	<p>ニーズは把握しているのか。</p>
幼保連携推進室	<p>全てを把握しているわけではないが、3歳児を預からない要因はいろいろある。まず一つ目に、専用教室のある園と専用教室のない園があり、全ての3歳児を預かることができない。</p> <p>二つ目に全国的に保育士の不足が叫ばれているが、さぬき市では幼稚園教諭や保育指導員も不足している。</p> <p>また、旧津田町・大川町・寒川町であれば、3歳児までは保育所、4歳児以降は幼稚園と行き先がはっきり分かれているが、旧長尾町・志度町は保育所の入所率が高く、5歳児まで保育所に行くケースもあるなど、地域特性もある。</p> <p>このほか、3歳児まで預かり保育を拡大実施すると、民間保育所に多大な影響を及ぼすことも懸念されており、ニーズを叶えるために民業を圧迫してよいのかという問題もあって実現されていない。</p>
委員	<p>保育士資格がないと預かれないのか。</p>
幼保連携推進室	<p>基本的にさぬき市では幼稚園教諭、保育士資格、小中高等学校の教諭資格を持った方という条件で募集している。</p>
委員	<p>東京都での成功事例として、児童数が増えたときは地域の高齢者に見守ってもらい、高齢者のコミュニティと上手く組み合わせているところもあるが、さぬき市の取組状況はどうか。</p>
幼保連携推進室	<p>責任の所在について判断が難しい。有資格者の確保が問題になっているため、昨年度から、常時雇用の預かり保育指導員が休業した場合や二人体制で運営している幼稚園で人員が不足した場合には、幼稚園教諭や保育士を目指す大学生にも範囲を広げてスポット的に来ていただくという形をとっている。委員さんが述べた地域での受入枠も非常に重要な要素だと考えているが、人員の確保を地域で担保できるのかという課題もある。常時ご協力いただける話であれば、十分検討できる。</p>
委員	<p>その点を地域に呼びかけるのが行政の仕事ではないのか。有資格者だけを集めるのが難しいのであれば、経験もプラスになると思うので、きちんとした有資格者がいて、補助的な役割をするという人が何人かいてもいいのではないかと。そういう社会作りも大事だと思う。</p>

幼保連携推進室	最近、有資格者枠が拡大してきたものの、無資格者の任用は国が認めていない。ボランティアとして補助、お手伝いしていただくという点は問題ないと思うので、今後検討したい。
委員	希望者は全員受け入れられているのか。
幼保連携推進室	はい。
委員	現状、受入側の人員は確保できているということですね。
幼保連携推進室	何とか確保できているのが現状である。 全園で受入れ開始となったが、園によって児童数にバラつき等もある。
委員	高齢者のボランティア等、資格を緩和する提案を検討する必要がありますね。
幼保連携推進室	担当者は有資格者が条件であるが、お手伝いいただくのは可能である。
委員	正規の幼稚園教諭は預かり保育に全く関わっていないのか。
幼保連携推進室	通常時は関わることがないが、長期休業中は関わっている。
委員	事業費は、人件費がほとんどか。
幼保連携推進室	ほとんどが人件費であり、残りが教材費、消耗品等である。
委員	9割程度が人件費となっているが。
幼保連携推進室	はい。
委員	預かり保育の時間は18時までとなっているが、働いている保護者が18時に迎えに行くことは難しく、預けたくても預けられない人もいると思うが。
幼保連携推進室	3歳児への預かり範囲拡大時のニーズ調査に、時間延長を望む意見もあったが、19時まで延長となると現在就労していただいている保育指導員も家庭の事情等あり就労できないというのが現実であり、人員が確保できなくなりかねない。 現在12人を任用しているが、毎年人員確保に苦勞し、保育指導員の善意で継続して来ていただいているという状態である。
委員	近隣市町で遅くまで預かっているところはないのか。
幼保連携推進室	高松市では幼稚園の預かり保育事業は行っていない。 幼稚園の保育時間も、昨年度さぬき市は15時から14時30分へと切り上げたが、高松市については保育時間が14時までとさらに短い。
委員	保育指導員12人については、幼稚園の近隣で確保しているのか。
幼保連携推進室	採用時に住所要件はなく、東かがわ市の方もいる。通勤手当の支給がないため、

	できるだけ通勤距離が短くなるよう配慮して近隣で就労いただいている。
委員	預かり保育を担っていただける方を事前登録するなど、補充できる人材確保策が求められるのではないかと。
幼保連携推進室	常時勤務いただいている12人以外に、現在登録している預かり保育指導員が約40人いる。預かり保育指導員が年次休暇や体調不良等で休む場合、長期休業中で人出が不足する場合などに来ていただいている。ただ、40人登録していても実際に勤務いただけるのは数人である。急をお願いという事情もあり、「毎日働きたい」、「週2、3日働きたい」などという各指導員の希望に沿わない場合もあり難しい。
委員長	地域によって4歳になると保育所から幼稚園に変わる風習があるとあったが、保育所だと19時まで預かってもらえるのに、なぜ保育時間の短い幼稚園に移るのか。読み書き等、幼稚園教育を受けさせたいということか。
幼保連携推進室	保護者の就労の多様化もあり、5歳児まで保育所に預ける家庭も増えているが、要因として大きく分けて二つある。幼稚園教育を受けさせたいというニーズと、もう一つの要因は保育料金の違いである。
委員長	預かり指導保育員の年齢層は高いのか。
幼保連携推進室	60代が5人、50代が5人、40代と30代が1人ずつの計12人である。最高齢は68歳である。
委員長	任用の年齢制限はあるのか。
幼保連携推進室	ない。勤務時間が14時15分から18時15分までの4時間となっており、小さい子どもを抱えた方は勤務が難しく、子育てが終わった方に多く就労いただいていることも要因の一つだと考えている。
委員長	世代交代が上手くいかないと、今後継続が難しくなるのではないかと。
幼保連携推進室	別事業で、支援を要する子どもに配置される「生活補助員」という職種があるが、人員確保の方策として、3年前から「生活補助員」と「預かり保育指導員」の職種を一体的な運用に取り組んでいる。一番のメリットは、昼間の子どもたちの様子を見た生活補助員が、そのまま預かり保育に入ってもらえること。人材を幅広く獲得できる効果も期待でき、現在2人が該当する。
委員	以前は放課後児童クラブと一緒にあって預かっていたと思うが、今後、放課後児童クラブとの統合は。
幼保連携推進室	放課後児童クラブは、対象学年が小学4年生までから6年生までに範囲拡大したため受入れに余裕がなく、待機児童が出ている状況である。幼稚園と一緒にできれば、ますます定員が厳しくなってしまう。また、放課後児童クラブは、原則小学校の空き教室を利用することとなっているが、現在空き教室はなく、運営は難しいと思う。
委員	学校跡地や地域コミュニティでの受入は可能ではないかと。

幼保連携推進室	例えば、旧鴨部小学校であれば、旧鴨部幼稚園を活用することで、地域の児童やコミュニティの方に集まってもらえる可能性やメリットが考えられる。廃校利用となると児童の移動手段や建物の耐震性など課題は山積だが、検討していきたい。
委員	小田地区であれば学校が統合したが、公民館が残っている。全部を一つに集めるのではなく、例えばエリアごとに鶴羽地区はこちらで預かる、鴨部地区はこちらで預かるというようにすれば、受入側の人員確保も少なくなるし、地域のお年寄りでもサポートできる可能性が広がる。柔軟に考えていただきたい。
委員長	それでは、評価シートの記入をお願いします。 <評価シート記入>
委員長	それでは、本日最後の生涯学習課の「津田湾古墳群保存整備事業」に移ります。担当課から5分程度で事業を説明してもらい、そのあとで質疑応答を30分程度行います。では、お願いします。
生涯学習課	<事業説明>
委員長	それでは、ご質問をどうぞ。
委員	事業の重要性を市職員、市民ともに理解してもらう努力が必要ではないか。予算はほとんどなく、全ての古墳を回ったわけではないが、看板表記も不十分である。観光資源にもなると思うので、広報や整備に関する抜本的な改革をお願いしたい。
委員	国や県の補助制度や活用予定は具体的にあるのか。
生涯学習課	用地買収は国の補助があり、整備についても内容にもよるが補助がある。
委員	市内の学校に対するPRは。
生涯学習課	校外学習に訪れる学校もあるが、全てではない。
委員	国の補助金があるのであれば、取組に力を入れてもよいのではないか。
委員	今後、どれ程の用地買収が必要なのか。
生涯学習課	9古墳のうち、購入が終わっているのが5古墳。4古墳の買上が残っている。
委員	どこが終わっていますか。
生涯学習課	うのべ山古墳、古枝古墳、龍王山古墳、岩崎山4号古墳、一つ山古墳の5つが公有地化済であり、約2万㎡です。残る4古墳は、約3万㎡になります。
委員	一般的な不動産と違い、史跡には特別な法の規制があるのか。
生涯学習課	文化財保護法に基づき、2,000万円の控除が受けられる。

委員長	所得税が控除されるのであれば、市としても買上を依頼しやすいですね。
生涯学習課	文化財を有する土地は、利用が制限されてしまうため土地評価が下がっている。所有者には有効活用に協力いただけるよう説明し、買上への理解を求めている。
委員	保存管理計画は。
生涯学習課	平成29年度の策定を目指している。
委員	説明のなかで「観光資源と教育資源の両方の活用を目指します」とあったが、具体的にはどのようなことを考えているのか。
生涯学習課	現在、古代の人と同じ航路をイメージして、海からさぬき市を臨む観光クルージング（高松港→引田港、引田港→高松港）を、商工観光課と旅行会社のタイアップ事業として今年度試験的に実施している。
委員	いいアイデアである。古墳時代の物語からストーリーや行程を作り、大串半島に寄ったり、さぬき市を紹介したりと、実現できるよう頑張ってもらいたい。
教育部長	管理計画の策定をお願いしている先生方から専門的知見をいただき、さぬき市に古墳を作った由来や海路貿易が盛んだったことなど、「津田古墳群の存在を生かせる見せ方」をアピールし、観光にも生かす。他にも、旧鶴羽小学校跡地に整備している施設を拠点に体験学習的なものを行う。富田茶臼山古墳と融合した、古墳時代をとおした学習ができる場を提供したい。
委員	用地買上から観光資源化まで、どう進めていくつもりなのか不安だったが、一連のストーリーを理解できた。市民に向けたアピールをもっと行えばよいと思う。
委員	用地取得費は、毎年500万円程度で足りるのか。
生涯学習課	用地取得は、別事業で実施している。
委員	どの事業なのか。
生涯学習課	「史跡等購入事業」である。
委員	全体としては、他に大きい事業があるのですね。どのくらいの規模なのか。
生涯学習課	28年度は富田茶臼山古墳の進捗状況との関連もあって予定なしだが、27年度実績は470万円である。25年度は1,500万円ほど。古墳を一つずつ、一括で買い上げている。
委員	国の補助は8割くらいですか。
生涯学習課	はい。
委員	古墳の利活用と用地取得を別事業にしている意味は。

生涯学習課	特にない。
委員	なければ一本化してもよいのではないか。
生涯学習課	検討する。
委員	教育・観光資源として価値があるのは十分理解できるが、ほとんど活用できていないのでは。さぬき市全体を巻き込まなければ、せっかくの価値が見出せない。少なくとも市民の理解を得て、活動を広げていかなければ意味がないので、しっかり広報すべきである。
委員	古代や歴史上の遺産は、研究者個人の趣味に陥ってしまう恐れもあるが、さぬき市の場合はストーリー性を見いだせているので、それぞれの古墳群の関連を計画管理し、展開させるとよい。
委員	市全体でランドデザインを明確にしていきたい。
教育長	個々の古墳を深く研究することで、古墳同士のつながりが判明してきた。研究成果の関連を含めて、今後方針を定めて進めていきたいと考えている。
委員	ストーリーをアニメ化することも可能ではないか。
委員	子どもからお年寄りまで理解しやすいかたちにするのはよいことだ。
委員長	それでは、評価シートの記入をお願いします。
	<評価シート記入>
委員長	以上で、第2回さぬき市行政評価委員会を終了します。ありがとうございました。
	<閉会（15：55）>